

令和3年4月1日

回転灯籠の電球の緩みが起因となった火災

1 出火日時

12月〇〇日 午後2時〇〇分

2 火災概要

住人が、外出するため玄関に行ったところ、仏間障子戸の隙間から煙が出ているのを発見。障子を開けたところ、仏壇の付近からバチバチという音と煙が出ていた。家族3人で消火器や水で初期消火を試みるも消し止めることができず、木造2階建て住宅約190㎡と倉庫が全焼したもの。なお、通報は初期消火を断念した家族により行われた。

3 原因概要

住人に聴取したところ、約2年前に購入した電気式回転灯ろう（以下「灯ろう」という。）について、叩く等の外的要因を加えることで点灯させており、スイッチは常時入れたままであったと証言があった。

また、灯ろうがあった部分に特徴的な燃え込みがあり、発掘された灯ろうの電球口金とソケット部に溶融痕が発見され、溶融痕からは、亜酸化銅増殖反応が認められた。

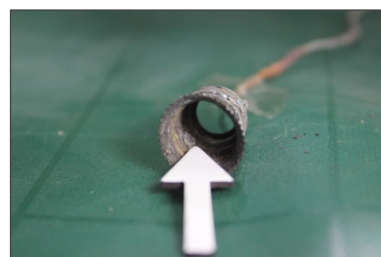
これらの事実から、本火災の原因は、灯ろうの電球が緩み、接触抵抗の増加によるジュール熱により発熱し出火したものと推定された。



▲電球とソケット



▲電球の溶融痕



▲ソケットの溶融痕

担 当：予防課
連絡先：0226-22-6693